

全国月間火山概況

桜島では、昭和火口及び南岳山頂火口から 2 km 程度の範囲で弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要であることから、火口周辺警戒（噴火警戒レベル 3、入山規制）を継続しています。その他の火山は予報警報事項に変更はありません。

なお、6 月 9 日に有珠山に噴火警戒レベルを導入し、噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。

7 月 9 日現在の各火山の噴火警戒及び噴火予報の発表状況は以下のとおりです。



図 1 噴火警戒発表中の火山

・噴火警戒レベル導入火山

火口周辺警戒（噴火警戒レベル 3、入山規制）

桜島

火口周辺警戒（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）

三宅島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島

噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）

樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、岩手山、吾妻山、草津白根山、浅間山、御嶽山、富士山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山(御鉢、新燃岳)、口永良部島

・噴火警戒レベル未導入火山

火口周辺警戒（火口周辺危険）

硫黄島

噴火警戒（周辺海域警戒）

福徳岡ノ場

噴火予報（平常）

知床硫黄山、羅臼岳、摩周、アトサヌプリ、雌阿寒岳、丸山、大雪山、十勝岳、利尻山、恵庭岳、倶多楽、羊蹄山、ニセコ、恵山、渡島大島、恐山、岩木山、八甲田山、十和田、秋田焼山、八幡平、秋田駒ヶ岳、鳥海山、栗駒山、鳴子、肘折、蔵王山、安達太良山、磐梯山、沼沢、燧ヶ岳、那須岳、高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、新潟焼山、妙高山、弥陀ヶ原、焼岳、アカンドナ山、乗鞍岳、白山、箱根山、伊豆東部火山群、利島、新島、神津島、御蔵島、八丈島、青ヶ島、ペヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孀婦岩、西之島、海形海山、海德海山、噴火浅根、北福徳堆、南日吉海山、日光海山、三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄島、西表島北北東海底火山、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、折捉焼山、折捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山

（火山の順は活火山総覧（第 3 版）による）

注)噴火警戒レベルは、その活用が地域防災計画等で予め定められており、レベル毎の防災対応がキーワードとして示されています。

【各火山の活動状況及び予報警報事項】

全国の主な火山の活動状況及び予報警報事項は以下のとおりです。その他の火山については、火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

三宅島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

24日に行った現地調査では、二酸化硫黄放出量は一日あたり1,000~1,700トンで、依然として多量の火山ガス放出が続いています。また、三宅村の火山ガス濃度観測によると、山麓でたびたび高濃度の二酸化硫黄が観測されています。

山頂火口直下を震源とする火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態が続いています。

噴煙高度は火口縁上概ね100~200mで推移しました。

地磁気連続観測では、火山体内部の熱の状況に大きな変化はみられませんでした。

GPS連続観測では、山体浅部の収縮がわずかながら継続しています。

三宅島では火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口周辺では噴火等に対する警戒が必要です。また、風下にあたる地区では火山ガスに対する警戒が必要である。雨による泥流にも注意が必要です。

硫黄島 [火口周辺警報(火口周辺危険)]

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過しています。

国土地理院の観測によると、2006年8月以降みられている島全体が大きく隆起する地殻変動は、現在も継続しています。

硫黄島では、引き続き火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火がみられていた領域では警戒が必要です。

福德岡ノ場 [噴火警報(周辺海域警戒)]

福德岡ノ場付近の海面で、12日に第三管区海上保安本部が上空から行った観測により白色の浮遊物が、25日に海上自衛隊が上空から行った観測により変色水が確認されました。いずれも火山活動によるものとみられます。

福德岡ノ場では小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では警戒が必要です。

阿蘇山 [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

中岳第一火口の湯だまりの表面温度や湯量に大きな変化はありません。中岳第一火口南側火口壁の一部の噴気孔では引き続き赤熱現象が確認されています。

孤立型微動の回数は、一日あたり300回程度の多い状態が続いていますが、これらの振幅は概ね小さいものでした。

このほかの地震活動及び噴煙活動は低調な状態で、地殻変動や地磁気的狀況に特段の変化はありません。

阿蘇山では火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられません。ただし、火口内では噴気や火山ガスの噴出が見られることから、火口内及びその周辺では火山灰噴出等に警戒が必要です。また、火口周辺では火山ガスに対する注意が必要です。

桜島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)]

昭和火口で1日から13日にかけて噴火が18回(そのうち爆発的な噴火が15回)発生し、弾道を描いて飛散する大きな噴石が最大で5合目(昭和火口からの水平距離は概ね500~800m)まで達しました。14日以降は、28日06時36分の爆発的な噴火1回の発生にとどまりました。火砕流は発生しませんでした。噴煙高度の最高は13日23時36分に発生した噴火の火口縁上2,500mでした。

山麓の高感度カメラ^{注)}で捉えられる程度の微弱な火映が3日から5日の夜間に観測されました。

南岳山頂火口では噴火は発生しませんでした。

6日に行った現地調査では、二酸化硫黄放出量は一日あたり400~800トンと前回(5月26日、一日あたり600~900トン)と同程度でした。

国土地理院によるGPS連続観測では、始良(あいら)カルデラ(鹿児島湾奥部)の地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な膨張が継続しています。また、傾斜観測では、3月中旬から山頂方向が上昇しているとみられるわずかな変化が続いています。

桜島の昭和火口の噴火活動は、2006年6月の噴火以降、2008年2月には火砕流を伴う噴火が発生、

4月から6月には爆発的噴火の回数が増加するなど次第に活発化している傾向がみられ、火山活動の推移を引き続き注意深く監視する必要があります。

南岳山頂火口及び昭和火口から2 km 程度の範囲で弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に、降雨時には泥流や土石流に注意が必要です。

注)九州地方整備局大隅河川国道事務所の黒神河原上流設置カメラ等による。

薩摩硫黄島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや活発でした。噴煙高度の最高は火口縁上500mでした。

火山性地震はやや多い状態が続いています。

硫黄岳山頂火口周辺では噴火に対する警戒が必要です。

諏訪之瀬島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

17日に小規模な噴火が発生しました。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、23日と27日にも小規模な噴火が発生しました。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いています。

諏訪之瀬島では今後も御岳火口から1 km 程度の範囲に弾道を描いて飛散する大きな噴石が達する程度の小規模な噴火が発生すると予想されますので、これらの地域では噴火に対する警戒が必要です。

(火山の順は活火山総覧(第3版)による)

資料1 全国の火山の噴火警報及び噴火予報の発表状況のまとめ（平成20年7月9日現在）

（1）主な活火山

	火山名	噴火警報及び噴火予報の発表状況 （7月9日現在）	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
北海道地方	雌阿寒岳	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	十勝岳	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	樽前山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	倶多楽	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	有珠山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2008年6月9日 噴火予報（レベル1、平常）
	北海道駒ヶ岳	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	恵山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
東北地方	岩木山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	岩手山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	秋田駒ヶ岳	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	栗駒山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	吾妻山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	安達太良山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	磐梯山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
関東・中部地方・伊豆・小笠原諸島	那須岳	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	草津白根山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	浅間山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	新潟焼山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	御嶽山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2008年3月31日 噴火予報（レベル1、平常）
	白山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	富士山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	箱根山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	伊豆東部火山群	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	伊豆大島	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	三宅島	火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年3月31日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	八丈島	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	硫黄島	火口周辺警報（火口周辺危険）	2007年12月1日 火口周辺警報（火口周辺危険）
福徳岡ノ場	噴火警報（周辺海域危険）	2007年12月1日 噴火警報（周辺海域警戒）	
九州地方・南西諸島	九重山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	阿蘇山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	雲仙岳	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	霧島山（新燃岳）	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	霧島山（御鉢）	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	桜島	火口周辺警報 （レベル3、入山規制）	2007年12月1日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年2月3日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2008年2月20日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年4月8日 火口周辺警報（レベル3、入山規制）
	薩摩硫黄島	火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	口永良部島	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年1月25日 噴火予報（レベル1、平常）
	諏訪之瀬島	火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）

注）噴火警報及び噴火予報の発表履歴欄には、平成19年12月1日の噴火警報及び噴火予報の発表と噴火警戒レベルの運用開始からの経過を示す。

この表では、主な活火山として、警報を発表している、または連続的に監視を行っている火山を示している。また、ここで示すレベルは噴火警戒レベルである。

(2) その他の活火山

以下の活火山では平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表し、その後、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

	火 山 名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、摩周、アトサヌプリ、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山
東北地方	恐山、八甲田山、十和田、秋田焼山、八幡平、鳥海山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方 及び伊豆・小笠原諸島	高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、焼岳、アカンダナ山、乗鞍岳、利島、新島、神津島、御蔵島、青ヶ島、ペヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孀婦岩、西之島、海形海山、海德海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山
中国・九州地方 及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄島、西表島北北東海底火山